

ベトナムにおける安全・安心な野菜の生産分野に対する投資

岡山県ベトナムビジネスサポートデスク (I-GLOCAL Duong Thuy Dung)

はじめに

ベトナムでは多くの農作物が作られているが、その中でも野菜は昔から欠かすことのできないものとなっている。現在ベトナムでは健康的な生活が重視されており、単なる「野菜」ではなく、「安全な野菜」が注目されている。そのため、国内企業だけでなく、海外企業も含めた多くの企業による、安全・安心な野菜の生産分野に対する投資が拡大している。

1. 「安全な野菜」の概念

まず、「安全な野菜」とはどんな野菜であろうか。農業専門家によれば、野菜本来の美味しさ・品質を保ちつつも農薬・化学肥料等の有害物質及び有害生物の量が許容水準より少ない野菜のことである。また、安全・安心な野菜は原産地も適切に表示されているため、消費者も安心して購入することができる。「安全な野菜」の水準を定める指標としては、全世界レベルの適正農業規範 (Global GAP)、ベトナムの適正農業規範 (VietGAP)、HACCP (危害分析重要管理点) 等がある。

もちろんすべてのベトナム人が「安全な野菜」という基準で野菜を購入するわけではない。「安全な野菜」のメインターゲットは、都市に住んでいる健康的な生活習慣に関心を寄せる高所得者層や、顧客のために「安全な野菜」を重視する高級スーパー、レストラン、ホテル等である。しかしながら、健康的な生活を営むことへの関心が高まるにつれ、「安全な野菜」に注目が集まり、なるべく「安全な野菜」を選択しようとする消費者が増加している。また、「安全な野菜」が注目されることで流通チャンネルも拡大し、富裕層だけでなく、中間層の人々も味わえるようになってきており、「安全な野菜」に対する需要も高まっている。

2. 投資状況

以上のような状況から、多くの企業が次々と安全・安心な野菜の生産分野に投資している。例えば、Dalat Organik 社、Dalat GAP 社、Dau tu Phat trien rau sach Song Hong 社 (Song

岡山県ベトナムビジネスサポートデスクレポート

Hong 安全野菜栽培投資会社)、Rau sach Viet 社(ベトナム安全野菜会社)等の国内企業、及びニコニコヤサイ、An Phu Lacue 等の日系企業などである。その内、今回は Dalat GAP 社とニコニコヤサイを紹介したい。

Dalat GAP 社はベトナムにおいて適正農業規範 (Global GAP)の水準を満たしており、ベトナムの農業・農村開発省から「高度技術農業企業」として認められた企業である。



(出典：Dalat GAP 社のホームページ)

Dalat GAP 社は、設立から 15 年に渡り毎日 1.5~2 トンの野菜を収穫しており、ハノイ、ホーチミン、ダナンなどのベトナム大都市はもちろん、日本市場にも出荷している。Dalat GAP 社の農園で栽培する野菜は、いつも新鮮な状態で直接 Dalat GAP 社の店舗に提供されているため、消費者にも人気がある。市場やスーパーで販売されている野菜に比べ、価格が少々高いという声もあるが、それでも売れ行きは好調である。



(一番右の人物が社長 - 出典：ニコニコヤサイの FB ホームページ)

続くニコニコヤサイはDalat GAP社と違い、ベトナム市場のみを対象としている企業である。ニコニコヤサイの塩川社長は大学時代（当時21歳）のベトナム旅行をきっかけに、ベトナムの農業に興味を持ち、自ら投資を行いニコニコヤサイを設立した。そして、日本から呼び寄せた研究生やベトナム人と協力しながら、ベトナム駐在日本人だけでなく、ベトナム人の消費者にも安全・安心な野菜を提供している。農園規模は5,000㎡で、毎日500キロの野菜を消費者に提供している。まだまだ発展途上の企業ではあるが、消費者からの後押し、社長の情熱でニコニコヤサイの事業は今後も拡大していくと見られている。

上述の企業は、安全・安心な野菜の生産分野で成功した例であるが、一方では失敗した企業も多い。主な理由としては、消費者に対して「安全な野菜」としての信頼感を与えることができなかつたり、平均価格に比べて高価であることなどが挙げられる。企業にとっては、Global GAP、VietGAP等の水準を満たそうとすると投資額が多額に上り、管理が難しいなどの障壁がある。それらの障壁を解決するためには、生産者や企業が単体で投資するのではなく、他の企業や農家、地方の行政と協力し、組織を作り、安全・安心な野菜への信頼感を担保する必要があると考えられる。信頼感を得ることができれば、ベトナムの消費者は、ベトナムで栽培されている「安全な野菜」であると信じ、購入するのではないかと考えられる。

おわりに

ベトナム人は今後も健康的な食事を大切にしていくと考えられることから、ベトナムにおける安全・安心な野菜の生産を重視する傾向は、一時の流行などではなく、今後ますます強くなっていくだろうと言われている。

高度な生産技術を用いる農業がまだ発達しておらず、安全・安心な野菜を大量に栽培できていない現状において、ベトナム農業へ投資する機会は大きいと考えられる。

【参考と引用文献】

1. <http://www.rausachviet.com/guy-trinh-rausachviet/the-nao-la-rau-an-toan.html>
(安心・安全野菜の概念)
2. http://www.nhandan.org.vn/mobile/_mobile_kinhhte/_mobile_chuyenlaman/item/21347602.html
(安全な野菜の生産状況) 2013/10/3
3. <http://doisong.vnexpress.net/tin-tuc/nhip-song/chang-ky-su-nhat-den-viet-nam-lam-nong-dan-2908641.html>
(ニコニコヤサイについての評価) 2013/11/13